

花江都

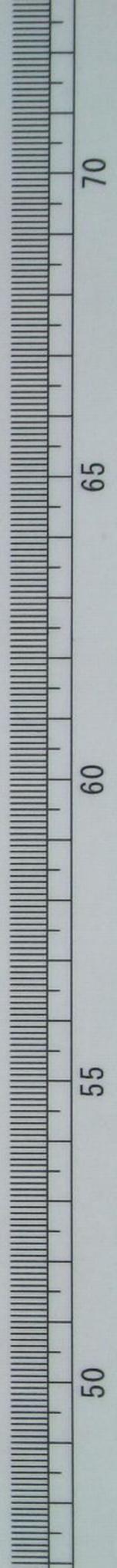
歌舞妓

年代記

四編

壹

津田文庫
文庫 1
1767
13



林治

花江都年代記卷之七
歌舞妓

東都

談洲樓 馬馬著

つた文庫

早稲田大学
図書館蔵書

天明七丁未年正月ヨリ至寛政五癸丑年霜月ニ七年ノ間ヲ記ス

天明七丁未年正月十一日ヨリ桐長相座雪齋華曾我梶本源志孝とカケテ二段園十郎

子夏丸徳社経門三助月さよは四郎上総のなき清彦をり園之郎は彦小徳

付政と山伏随樂院は五郎大後の虎万葉いまひは彦彦大房丸をひ彦その十郎浅尾

乃之付家この乃義新ひま徳次しせの小糸を毎之助之月廿五日森田座花菴初曾我

大後の虎葉を思社経と新ひま助五郎社成中村吉彦年付家お之津五郎かやう丸社彦之

後お葉を思社経と松風と小嶋が之後は三浦小社彦大工元次師也葉を思社経を思社

と思と大入大評判中村座大銀根曾我鬼王社彦と切通一の地彦の五平次大谷彦次之

奴妻平宗十五年付家と園之郎八百彦園行娘也としけら坂のお村彦年この乃義

常世五平次社経松助その乃の在彦市松とけ経妹うと雪中山留彦漢念の刀渡彦

つた

花江都年代記

010190605618



雨の日の
お茶の会



雨の日の
お茶の会

古今和歌集
卷之七

勝川春好画

春亭写



廿四年、才助の市村も大前、此狂言為十市大評判にて江戸狂歌連中より言書の歌
を集め三井訥子杜若路考奥山け五人の錦絵と勝川春好より老物五右衛門を写る
談洲樓催主ゆて前書ありて

のぼりまでおきまぐのニリ丸あつるとそとひ紋とやぞ 立川舎 鳥亭馬馬

見物のらやあつりのけよりと為朝ふらぬあす市うの好 文真亭 藏前の代地道頼

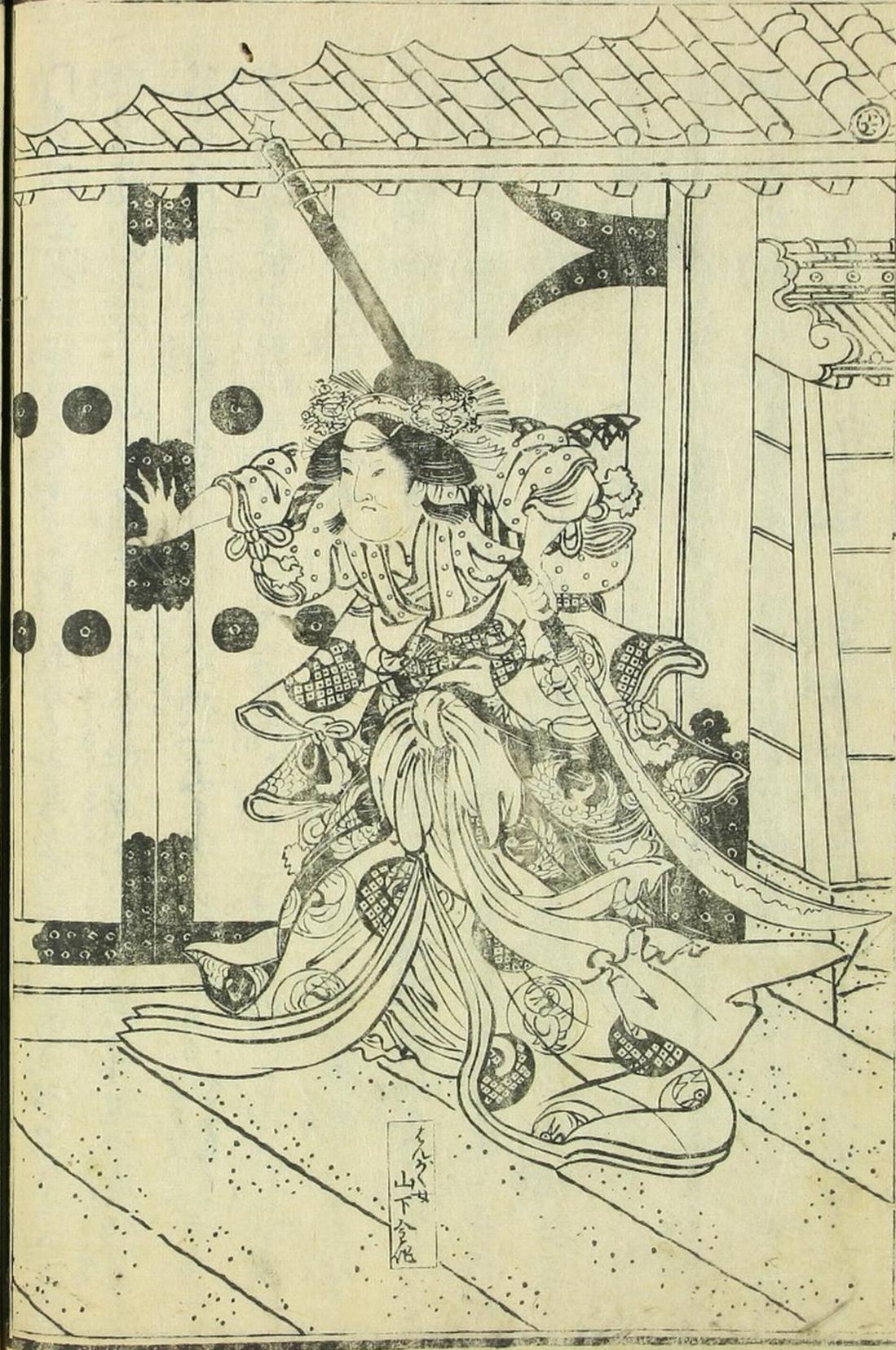
木三のや奥山さるぬあまのげふ急道の上は鬼王 秀風亭 俵 小 植

見物もこれ市村あさちなく鬼王入仕人と奥山 萬寿社忠志頼

あとしからは戸業はもよそとそとに椿の灰のゆく方 朱良菅 江

餘ハ繁多なればこれを畧と二月十日午半号 寛政と改えぬ。同日女目男立は武蔵

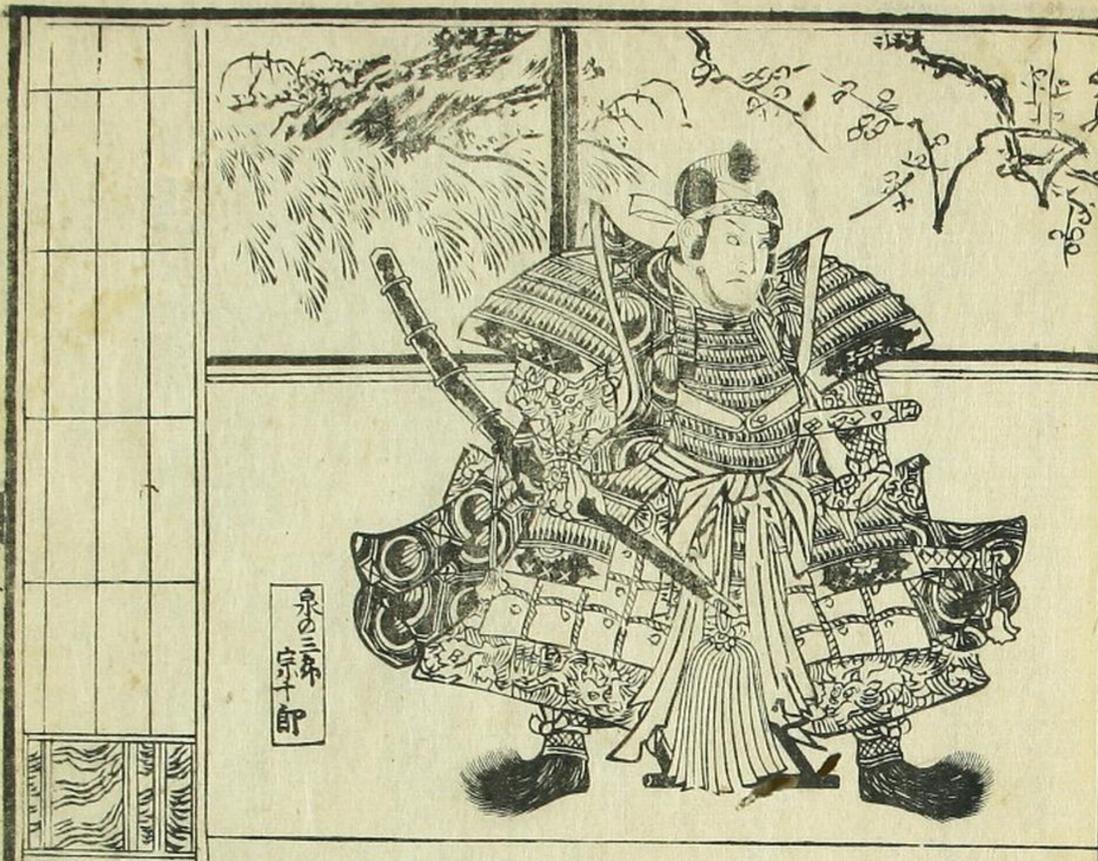
乃千早荒五市茂三信國十郎。江戸町けしのせぬ古く四代目國十郎のよりあてあて大評判
このせりありはあまの急。お十郎。浅間山獄の海流江のり大切と筆を急相と柳子石橋の正徳
大入大前へけ正月元日糸初の新柄國十郎は上の前。お急あつて相手をよめる。



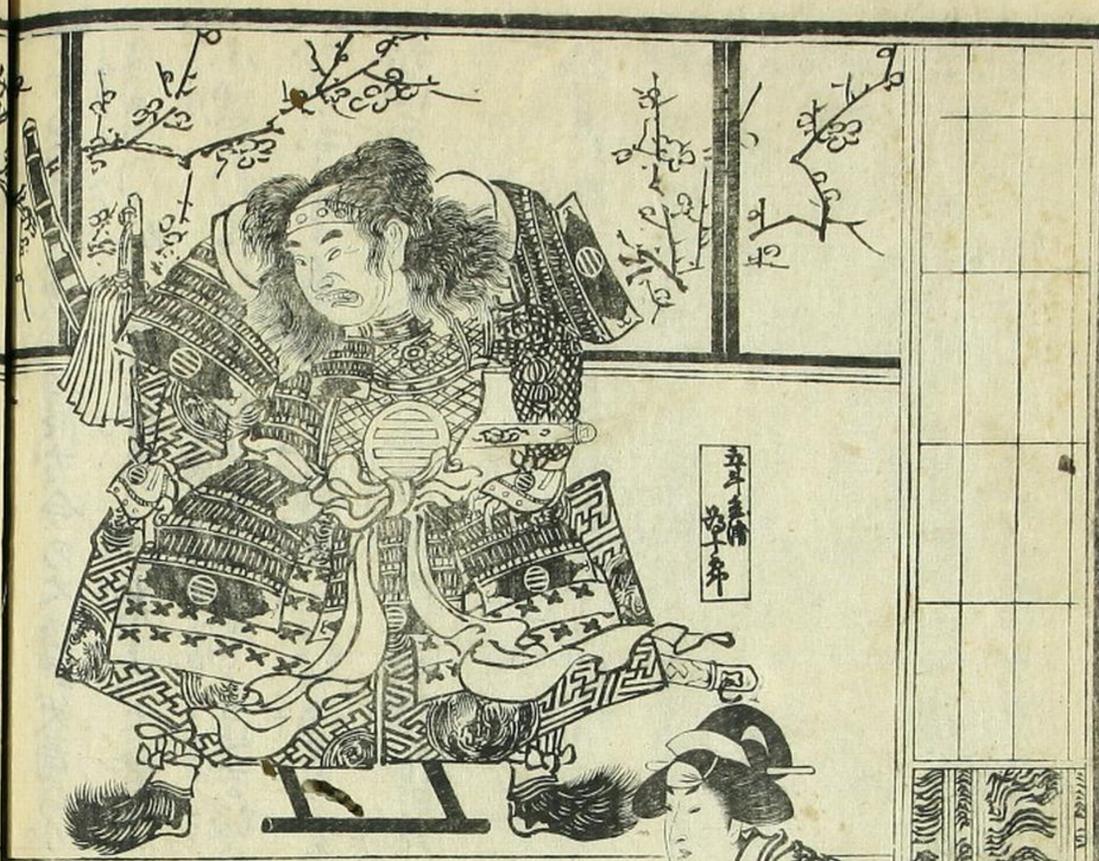
芝居入行けり。そのや。芝居打は糸糸。加古川へ行とも。宮内宮内。の。也。も。
 志と。ひ。あれ。と。幸。意。う。あ。ゆ。り。し。う。程。な。ら。じ。く。傳。を。う。わ。と。心。を。碎。く。と。う。り。或。人。の。心。
 後。考。の。角。力。取。ふ。公。易。た。り。の。な。れ。と。て。在。西。より。取。出。る。の。角。力。ふ。程。と。山。下。令。能。と。い。ふ。
 役。者。の。産。の。何。國。な。ら。う。と。な。て。ま。う。れ。と。い。ふ。大。坂。の。大。國。陣。幕。と。い。ふ。親。方。の。え。ぬ。と。い。ふ。
 右。の。吹。奏。と。語。る。國。も。不。便。お。し。ひ。の。村。里。虹。井。國。と。同。な。れ。が。幼。少。と。あ。る。と。い。ふ。
 種。と。末。の。春。を。と。お。祝。も。い。な。ら。ば。と。言。え。れ。ば。い。ふ。母。も。是。と。い。ふ。
 せ。め。て。の。念。晴。し。と。お。し。ひ。五。の。年。抱。瘡。へ。行。く。仕。并。何。と。して。目。お。令。と。い。ふ。
 の。や。う。に。旅。又。贅。の。色。お。し。腫。物。の。跡。元。て。あ。は。足。を。同。て。終。ら。れ。り。ま。ま。き。ら。り。と。い。ふ。
 な。ら。ば。母。へ。八。十。中。近。く。今。よ。け。残。て。居。る。と。今。生。か。一。度。逢。う。た。ま。と。告。て。と。い。ふ。又。も。い。ふ。
 送。り。け。れ。ば。流。石。難。波。の。國。取。六。十。餘。州。お。名。の。言。う。る。陣。幕。再。び。里。虹。と。い。ふ。
 幼。少。の。右。の。心。を。語。れ。ば。涙。と。ら。う。め。扱。入。ら。な。ら。ば。先。達。と。い。ふ。尋。め。り。財。物。を。見。
 せ。し。ゆ。何。と。も。お。し。ひ。其。心。と。い。ふ。幼。少。と。い。ふ。實。父。お。別。と。後。の。祝。の。教。訓。

折行と徒... 中ゆゑ斯のりと稚ふおとひ... 縁の修勢へ抜糸りて宿へる人の
幼ちお孫の歌を赤子位の中に交りさめけ苦勞いせが仕合と今此のまは子
と成出情してまゝの成長さるふ随ひなまね親産の母れ因を知りて不孝の罪治
悔いし何をも尋んとせむも後者の才なればはははせと親し人お相談したるを
使しつ實の伯父と名をまじり者ありてまゝに今字を稱するれ跡してははは伯
老の街せりてりてり。猶よ四十年余のりといひな命はよも方ほしとあてり
居るまゝそ私祝めてそらら。一涙さうらお答る。陣幕をそ安さるる。一日も
そそ彼角力さよ云つて母を答ふまあせ。嗚呼我が方におして對面せんと者
これ知る人々愛に事桂の依取もそ所ふれ多とや。叔里虹を粘かす
結法母おらあや。只今まては尋中さなる不孝とせむもわらんが早よん服との涙
もは方のるべけ後へ跡めて中へ入宮おな今おやまじと朝夕佛前よ香を
手向は園をおらぬと悔し世が。さぬは縁とてお田園はけここの世は

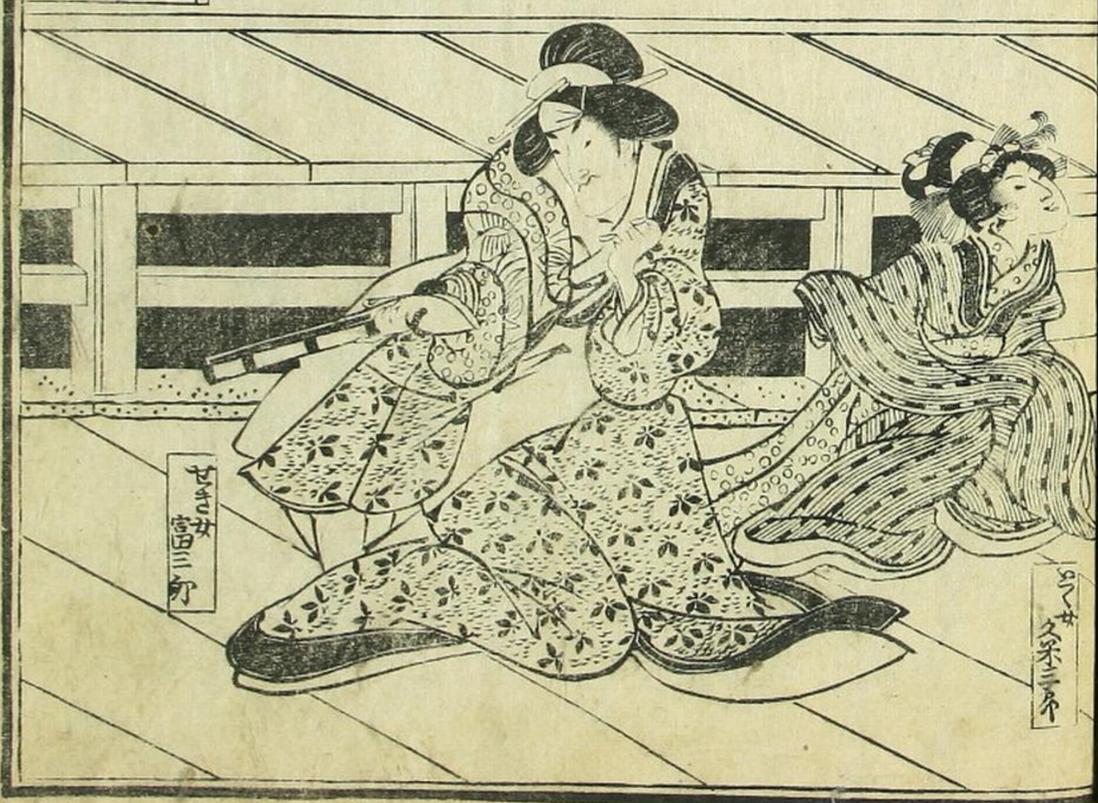
以ては目おそる有がきと涙と余はもははは母もおは。事け方おもたがねね
中つお恨もあやうが。さうこの行来知れぬおまもさ。中世間の父へも有る意
に連て修勢さありから天和も。又京太坂のあ及ごと其後西園廻れ四
辺路二年五年もるてもそれら。母もあ安あるとも三年月十年のあ過
行は今幽さ痛むじと打ちあれるがら風をさほさみより。嫁も父存しは本
一及取也。京宮の跡母が織の此りめん。下向さうらばあせまうと。おりさかひも
ま。西冷牛て居るまじ。それともひらと廢りもあやうかと。けあよあ。と四十
年修り。さぬ縁とて今日れ對面。ま事お都へて泪ごとあれる。今此中らまこの
ま。おとや有まのれと母が志のけは。襦袢もあ。じてあてたも。さ。い。さ。ん。
こらうと里虹もいつと泣出せぬ。居る人々。荒極。角力取お至。は。ま。て。同。
涙おしせびとや。其あのみ。紙ま。か。じ。と。委。書。送。り。と。松。の。淨。瑠。璃。
の文句れど。新うら。事文續集。お曰仙人のりもゆ。浅。子。母。沙。と。あ。



源の三郎
宗十郎

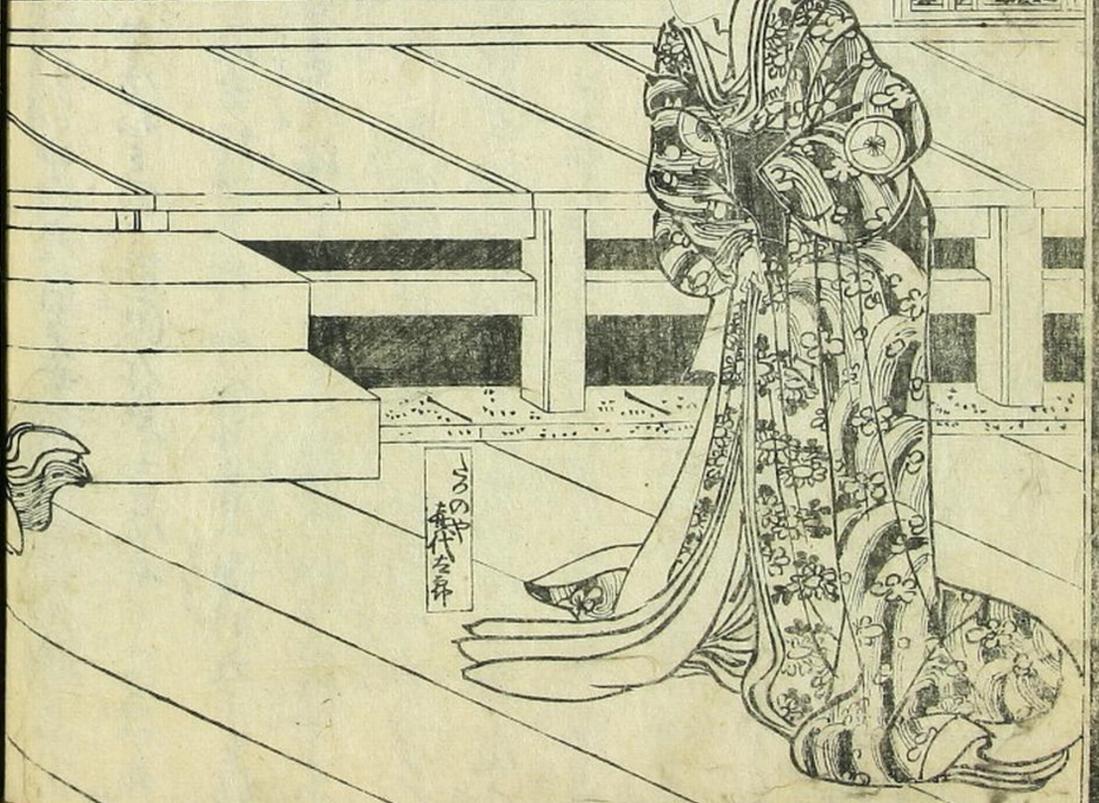


源の三郎
宗十郎



源の三郎
宗十郎

源の三郎
宗十郎



源の三郎
宗十郎

中村の我於二女、男女共。五代院の十弟宗室を鬼次回國の修行者実入瀧部伊賀守小
 治五年。和歌山作の三像次村喜之助紅梅殿の三像源三助又塔之の守護神北村天神
 の三像ととの法印源三助三助三助。二女目楠多門丸次村源三助細六郎左衛門尉我
 宗十郎豊岡村の百姓と五弟宗室六相持次弟門之助。仍とも評判よし。本林田屋休之守と
 河東権之助假三居と成。太疾勸進帳。能井本所忠元國十郎。あつと。八瓶の皇子子
 我弟。猪股小平六教細助五郎。源のうの三と津立郎。二役三行三平実の長田の三郎あり。
 三升園ふりの持宗実の法既の森と大海老翁。持宗妹おはと小佐川牝成郎。尚附の小佐川
 白拍子静小万美源の義經。二は五弟。黒木妻あのみ少佐川常世妻白とね平実の源八三浦
 廣綱園十郎。淨瑠璃。深寄時雨橋。常。益津兼をまると。園十郎の世あ人の子佐園子登
 の三郎可重しく候と大出来。寛政三女年。ま中村府。春貴豊國義。子友松経も度次。
 村宗八百義。小松門小波の義三奴おとと弟。無同の義のいもあつと。は田郎。二人對面。三郎の三郎
 大知本なり。松成も八百義。助。萬金でつら。七と刀を娘おは二役は四年。金と勝と。刀を守七

